

令和 4 年度 西東京市立 青嵐中 学校 学校評価報告書

学校教育目標

社会人としての資質を養い、心身の調和のとれた人間に育てる。
 1 豊かな創造性を育てる。(創造) 2 人を尊重し、物を大切にする心を養う。(貢献) 3 目的に向かって努力する意思を培う。(挑戦)

目指す学校像 (ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○温かく活気に溢れる学校 ○生徒、教職員の個性を生かす学校
- 【目指す児童・生徒像】 ○自ら学び、自らを治める生徒 ○自己実現に向けて挑戦し、やりぬく生徒 ○自発性と主体性に取り組む姿勢をもつ生徒(「一生懸命がかっこいい」)
- 【目指す教師像】 ○生徒に寄り添い、挑戦を支援する教職員 ○自ら学び、生徒と共に歩む教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・学習指導要領全面実施に向け、評価の充実についての校内研修では、教員の意識の向上が感じられるとともに、実施にあたって具体的な課題が挙げられるなど一定の成果が見られた。
- ・今年度導入される「ひとり1台タブレット端末の配布」を受けて、タブレット端末の効果的な活用および教員の技量向上が課題である。

	具体的方策	第1回評価	課題と対策	第2回評価	学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
確かな学力の向上	・タブレット端末を活用して生徒の意欲を高めるための授業改善を図る。 ・基礎学力の定着や知識の活用力を高める工夫ある授業実践を行う。	3	各教科の授業に対して、「わかりやすい」、「わかりやすいと思う」と感じている生徒が1学期よりも増えている。さらに基礎学力を確実に定着させる取組を工夫し、タブレット端末を効果的に活用するため手法を共有するための校内研修を充実させることが課題である。	3	各教科の授業で「わかりやすい」「わかりやすいと思う」と回答している生徒がほとんどの教科で1学期よりも増えていることから、生徒にとって学習の場が安全で安心できる居場所になっている証であると感じる。家庭学習については、保護者の期待値としても現れていると思われるため、小学校と連携して取り組む課題ではないか。	生徒にとって授業が「わかりやすい」から「わかった」と感じられるように基礎学力を定着させることが課題である。そのために、学力向上推進拠点校の取組を通して「教えて考えさせる授業」を定着させるとともに、タブレット端末をより効果的に活用する授業を実践する。
	・授業のふり返りや家庭学習において、自ら学ぶ姿勢と習慣を身に付ける。 ・ライズeライブラリに取り組みせたり、タブレット端末を活用して、各教科の学習課題に取り組みさせる。	2	前年度は、生徒が前授業との繋がりを意識できていない傾向が見られたが、授業改善推進拠点校の取組を通して考えさせる授業を定着させる中で生徒に意識の改善が見られた。タブレット端末を使った家庭学習とともに、毎授業の振り返りの活動および評価の手法を各教科で工夫し、生徒が家庭学習に取り組みやすい環境を整えることが次の課題である。	3	生徒の様子や保護者の意見から、青嵐中学校に対する信頼や安心感とともに、教員が生徒や保護者に誠実に対応している様子が感じられる。それが生徒の豊かな心の育成の成果として表れていると感じられる。生徒に寄り添ったつもりでも、実際に寄り添えているかは常に検証し、引き続き生徒に寄り添った指導をお願いしたい。	家庭学習の手引きを活用するとともに、日常の授業での振り返りの活動や、授業の導入でより積極的にライズeライブラリを活用するなど、生徒が家庭学習に取り組みやすくなることを意識した授業を実践する。
	・ローテーションで授業を担当し、「考え、議論する道徳」の授業を実践し、豊かな人間性の育成を図る。	3	担任以外の教員も授業に関わることから、生徒だけでなく教員も多様な視点で物事を考えることができるようになり、豊かな人間性の育成に繋がっている。生徒の変容が見取りやすくなるための中心発問の設定や、ワークシートを工夫することが必要である。	3	生徒の変容を確実に見取り、適切な評価を行うことが課題である。そのため、各授業における中心発問までの展開や、生徒にわかりやすい表現で発問するなどの工夫や、タブレット端末でJamboard等を活用して生徒の意識や考え方をより早く確実に生徒が共有できる授業実践を教員が共有できる機会を確保する。	生徒の変容を確実に見取り、適切な評価を行うことが課題である。そのため、各授業における中心発問までの展開や、生徒にわかりやすい表現で発問するなどの工夫や、タブレット端末でJamboard等を活用して生徒の意識や考え方をより早く確実に生徒が共有できる授業実践を教員が共有できる機会を確保する。
豊かな心の育成(いじめ防止)	・いじめのない学校を目指し、生徒会役員主体に「いじめ撲滅運動」を展開するなど、いじめ防止に向けた取組を充実させる。	3	年間3回実施するいじめアンケートや、生徒会役員主体の「いじめ撲滅運動」は継続して実施している。SNSの利用において、悪意はないが他の人を嫌な思いにさせたり誤解を招くことなどがみられるため、より一層生徒の心に響く指導を行う必要がある。	3	生徒の些細な発言や行動に対する教職員の意識を向上させることが課題である。日々のやりとり帳のコメントや、道徳のワークシート、行事の反省アンケート等は実施したその日に確実に目を通すとともに、日常的な生徒の挨拶などにも気を配り、生徒の小さな変化を見逃さずに教員間で共有することを確実に行わせる。	生徒の些細な発言や行動に対する教職員の意識を向上させることが課題である。日々のやりとり帳のコメントや、道徳のワークシート、行事の反省アンケート等は実施したその日に確実に目を通すとともに、日常的な生徒の挨拶などにも気を配り、生徒の小さな変化を見逃さずに教員間で共有することを確実に行わせる。
	・各行事において生徒主体の行事運営を目指し、生徒を積極的にかかわらせる。 ・生徒の目標達成に向けての支援、助言を通してやりぬく力の育成を図る。	2	行事の運営面ではコロナ前とは変化があるが、各行事において実行委員会を組織して生徒主体の運営に努めた。行事の意義や目的を明確にし、生徒のモチベーションを高めるように教員が支援、助言を行うことが課題である。	3	コロナ禍においていろいろと制限された中でその教育活動を行うことの大変さが感じられるが、先生、生徒ともにその中で工夫して、特に生徒の力を伸ばすように工夫して取り組んでいる様子が感じられる。	行事の意義や目的を明確に生徒に示し、行事は生徒が作り上げるものであることを生徒に意識させ、生徒のモチベーションを高く保つために、教員は生徒を支える意識を強くもち、生徒に適切な支援、助言を行えるように共通理解、共通実践を確実に行わせる。
	・仲間やクラスメイトと協力して体力を向上させるための取組の充実を図る。 ・生徒同士が温かな気持ちで触れあえる関係を築かせる等、心の育成を図る。	3	班長会やミニ面談等で得た情報を共有し、多くの教員が同じ目線で生徒を見守ることが課題である。Hyper-QUを実施し、学級の実態を客観的に把握し、学級内の生徒の人間関係の構築に活用する。	3	連日遅い時間まで職員室の明かりが点いているのを見て、先生方大変さが感じられる。先生方も健康や体調に注意して、心身ともに健康な状態で生徒や保護者に対応してください。	Hyper-QUに基づくデータの活用について担任だけでなく多くの教員で共有して生徒指導に対する教員の温度差が現れないようにすることが課題である。教職員全体で生徒を見守るために、小さなことも共通理解・共通実践を徹底させることが課題である。
業務改善・働き方改革	・教職員の週あたりの在校時間が60時間を超えないようにする。	3	教職員の週あたりの平均在校時間は60時間を下回っているが、特定の時期に特定の教員の在校時間が長くなるのが課題である。分掌や学年の業務担当を見直し、年間を通して特定の教員に負担が集中しないように調整する必要がある。	3	分掌や委員会担当を見直し、特定の教員に業務が集中しないように再度調整した。次年度も引き続き副校長や主幹教諭に業務の進捗状況や各担当の取組等を確実に把握させ、在校時間が長くなる教員を減らすようにさせる。	分掌や委員会担当を見直し、特定の教員に業務が集中しないように再度調整した。次年度も引き続き副校長や主幹教諭に業務の進捗状況や各担当の取組等を確実に把握させ、在校時間が長くなる教員を減らすようにさせる。
	・業務の効率化のために、電子データの整理や保存の方法を改善する。 ・ライフワークバランスについて、自己申告書に具体的な目標を示させて取り組む。	3	業務系PCのサーバ内のデータ管理のルールを徹底させることが課題である。そのため、業務系PCのサーバ内のフォルダを整理や、定期的にDISKにバックアップするためのルールを再度確認し、徹底する。また、ライフワークバランスについての目標は教職員との面談において確認する。	3	データ保存のルールを徹底させることが課題である。不要なデータを定期的、計画的に消去してサーバ内のデータをしっかりと管理させる。また、データを整理して管理しやすくなることを業務を効率的に進めるなど、ライフワークバランスを実現につながることを教職員に意識させ徹底させる。	データ保存のルールを徹底させることが課題である。不要なデータを定期的、計画的に消去してサーバ内のデータをしっかりと管理させる。また、データを整理して管理しやすくなることを業務を効率的に進めるなど、ライフワークバランスを実現につながることを教職員に意識させ徹底させる。
あったか先生	毎月の服務研修において、人権教育プログラムを活用し、教職員の人権意識の向上を図る。	3	毎月実施する西東京市あったか先生の研修を通して、教職員の人権意識の向上に努めている。チェックシートとともに研修のテーマにタイムリーな話題を取り上げるなど、研修の成果を確実に実践できるように、研修の資料を工夫することが課題である。	3	生徒アンケートや保護者アンケートの結果や、日常見かける生徒の様子から先生方が生徒や保護者に誠実に対応し、保護者も誠実に学校に関わっている様子が感じられる。一部には課題を抱える生徒などもあると思うが、それぞれに寄り添ったあたたかい指導を続けてくれることを願います。	研修の成果を生徒指導で確実に実践させることが課題である。そのため、教職員に研修の題材を自分事として捉えさせ、服務事故の防止に努めること、そして研修後の生徒指導の実践に即活用できる研修の資料を準備し、研修後の指導に役立てる研修を実践する。
	職員室の机上フラット化を目指す。	4	机上フラット化については、教職員が意識している様子が感じられる。配布物が多い時期などに机上にもの置かれたままになることも見られるが、退勤時に全教職員が日常的に机上整理を行っているなど、意識の向上が感じられるため、これを継続させることが課題である。	4	ロッカーや棚などを活用し、各教員の教材等の整理、管理を徹底させている。引き続き日々の整理が習慣化、日常化されるように継続して注意喚起をする。	ロッカーや棚などを活用し、各教員の教材等の整理、管理を徹底させている。引き続き日々の整理が習慣化、日常化されるように継続して注意喚起をする。